

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 横浜の産業革命	内容のまとめ C 近現代の日本と世界 (1) 近代の日本と世界 (エ) 近代産業の発展と近代文化の形成
-----------------------	--

1 単元目標

- ・ 近代文化の形成と文化の大衆化について、文献や映像・グラフなどの資料を適切に読み取りながら理解する。
- ・ 国民生活の変化や近代文化の形成と大衆化について、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切にまとめ表現する。
- ・ 日本の近代産業の発展と国民生活の変化や文化に対する関心を高め、主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

日本の産業革命について、富国強兵・殖産興業政策の下で近代産業が進展したことと関連させて、軽工業及び重工業の発展などの例を取り上げ、特に京浜工業地帯に着目し、その発展の基礎を築いた浅野総一郎(以下、浅野総一郎と表記する)の活動に焦点を当てながら、日本の近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展し、資本主義経済の基礎が固まったことを気づかせたい。

また、鉄道網の広がりや工業の発展などによって人々の生活に変化が見られたこと、その一方で労働問題や社会問題が発生したことも気づかせたい。

3 実践計画の概要

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展を基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響などに着目して、事象を相互に関連付けなどして、近代の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。	・近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
・近代文化の形成と文化の大衆化について、日本の近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展し、資本主義経済の基礎が固まったことを理解している。	・国民生活の変化や近代文化の形成と大衆化について、鉄道網や工業の発展によって人々の生活に変化が見られたことにも目を向け、多角的・多面的に考察し表現している。	・日本の近代産業の発展と国民生活の変化や文化に対する関心を高め、現代の社会がどのような過程を経て形成されたのか、主体的に課題を追究しようとしている。

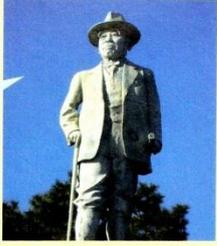
(2) 指導と評価の計画 [2時間扱い]

学習活動と内容 (時間数) 2時間	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>1 横浜から広まる近代産業 本時</p> <p>大正期に京浜工業地帯の先駆けとなる埋立事業を行った浅野総一郎に焦点をあてて、横浜の産業革命の歴史を理解する。</p>	<p>◆浅野総一郎の銅像 (「わたしたちの横浜」 小学校副読本)</p> <p>◆浅野総一郎関連年表 (「浅野学園作成資料」)</p> <p>◇主な出来事 (日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦) を記入しながら、生糸輸出の中心としての横浜から、京浜工業地帯へ転換した流れを読み取らせる。</p> <p>◆工業地帯への埋立 (「わたしたちの横浜」 横浜市立小学校副読本)</p> <p>◆横浜港の埋立のあゆみ (「横浜のあゆみ」)</p>
<p>2 労働・社会問題の顕在化</p> <p>近代産業が発展する中で人々の生活が変化する一方、顕在化してきた労働問題や社会問題について、様々な資料から読み取る。</p>	<p>◆写真 臨海工業地帯 (横浜開港資料館蔵)</p> <p>◆写真 三弦と琴の音に疲れをいやす労働者 (横浜開港資料館蔵)</p> <p>◇三弦の演奏を聴いている理由を考えさせる。</p> <p>◆写真 旭硝子工場 (横浜開港資料館蔵)</p> <p>◇工場による「有毒ガス」の発生 →子安の漁民による抗議・陳情の様子</p> <p>◇人口急増による住宅不足 →1918年 (大正7) 年に南太田に市営住宅建設</p>

4 本時目標

- 横浜の発展に寄与した浅野総一郎の年表を通して、日本の主な出来事を踏まえながら、横浜の埋立の様子を資料から読み取り、日本の産業革命の様子を理解する。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<ul style="list-style-type: none"> 浅野総一郎の銅像を提示する。 海に広がってきた横浜(地図)で、銅像の位置と向いている方向を確認する。 浅野総一郎関連年表に、主な出来事を記入していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S : 帽子を被って杖を持っている。昔の人だとは思ふ…。</p> <p>S : 小学校の本で見たような…。</p> <p>S : どこか遠いところを見ている。</p> </div>	<p>◆浅野総一郎の銅像 (「わたしたちの横浜」)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="color: blue;">こんなところに浅野総一郎が…!?</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 小学生の時にもらった「わたしたちの横浜」(横浜市立小学校副読本)にこんな銅像の写真があった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【発問例】</p> <p>T : この人物は誰かわかりますか。 → 浅野総一郎</p> <p>T : どこを見ているでしょう。 → 京浜工業地帯</p> <p>T : なぜ浅野総一郎は京浜工業地帯を見ているのでしょうか</p> </div>

<p>・埋立地の地図を読み取る。</p>	<p>浅野総一郎関連年表</p> <p>◇年表に主な出来事(日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦)を記入しながら、生糸輸出の中心としての横浜から、京浜工業地帯へ発展する転換を読み取らせる。</p>
<p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S：海に広がっている。</p> <p>S：土地が広がって、工場になったのかな。</p>	<p>◆工業地帯への埋立(「わたしたちの横浜」横浜市立小学校副読本)</p>
	<p>【発問例】</p> <p>T：埋立地は何に使われたのでしょうか。</p> <div data-bbox="1082 421 1423 922" style="text-align: right;"> <p>横浜・川崎の海岸の埋め立て</p> </div>
<p>・横浜の埋立の変遷を地図でたどる。</p>	<p>◇横浜全体の埋立はどのように進んだのだろうか。</p> <p>◆吉田新田</p> <p>◆横浜港の埋立のあゆみ</p> <p>【発問例】</p> <p>T：開港から明治時代中ごろの埋立地は何に使われたのでしょうか。</p> <p>→横浜の発展は埋立とともに進んだことをとらえる。</p>

7 博物館と学校の連携

横浜市教育委員会編「横浜市立小学校用副読本 わたしたちの横浜」は、横浜市歴史博物館など横浜市ふるさと歴史財団のいくつかの施設も協力して作成された資料集である。

その内容はたいへん濃く、小学校の社会科・理科『横浜の時間』だけでなく、中学校での学習にも役立つ内容が多く含まれている。

授業で使用した「工業地帯への埋立」は年代ごとの変化がすぐに読み取れ、現在の地図と重ね合わせることにより、工業のさかんな地域であることが理解しやすくなっている。

また、今回の年表は、横浜市史資料室所蔵、1923(大正12)年6月8日初版発行の浅野総一郎自著「浅野総一郎」巻末の年表を抜粋して作成した。学習に必要な資料を自作する場合、根拠となる事柄をしっかりと押さえる必要がある。

浅野総一郎関係年表

西暦	年号	年齢(歳)	出来事
1848	嘉永元	1	富山県氷見郡藪田村に生まれる
1862	文久2	15	織物工場を営む
1863	文久3	16	醤油醸造を始める
1867	慶応3	20	産物会社を設立する 日本海側一帯で有名になる
1868	明治元	21	産物会社破綻する
1870	明治3	23	氷見町に浅野商店を出し産物会社の再興をはかる
1871	明治4	24	事業に失敗し上京する 万世橋際および御茶ノ水的路傍にて冷水を売る
1873	明治6	26	横浜住吉町に薪炭商を営む 石炭販売を兼業 後に石炭販売を専業とする
1875	明治8	28	火事に遭い無一文となる 再興をはかる
1876	明治9	29	横浜瓦斯局よりコークスの払い下げを受け利益を得る
1879	明治12	32	横浜の市中 63 か所に公衆便所を建設する
1884	明治17	37	渋沢栄一らの助力を得て深川のセメント工場の払い下げを受ける 共同運輸会社を創立する 磐城炭坑社を創立する
1885	明治18	38	共同運輸会社を岩崎汽船部に合併し、日本郵船会社となる
1887	明治20	40	大日本人造肥料会社の創立に関わる 渋沢栄一らと東京製綱会社を創立する
1888	明治21	41	渋沢栄一と共に平一上野間の鉄道敷設を企画する
1896	明治29	49	東洋汽船会社を創立する
1908	明治41	61	鶴見海岸 150 万坪の埋立計画を企画する
1912	大正元	65	沖電気会社を創立する
1913	大正2	66	鶴見埋立組合を設立し、工事に着手する セメント工場を株式組織に改め、浅野セメント会社と改称する
1918	大正7	71	浅野物産会社を創立する 日本鑄造会社を創立する
1919	大正8	72	神奈川コークス会社を創立する 国際汽船会社の創立に参加する 関東水力電気会社を創立する 東京電力会社設立の計画を企画する
1920	大正9	73	浅野中学校を創立する
1921	大正10	74	内外石油会社を創立する
1922	大正11	75	浅野セメント会社の拡張工事が完成する
1923	大正12	76	鶴見に製鉄事業の計画を企て溶鉱炉の起工式を行う
1930	昭和5	83	約3ヶ月の欧米視察を行うが発病する 帰国後、大磯の別邸にて死去する

※関内にある横浜都市発展記念館は、関東大震災以後の横浜の発展の様子がパネル、写真等を用いて展示されている。工業地帯へ発展する海岸付近の変化についても同様である。授業に生かせるものも多くあるため訪ねてみてはいかがでしょうか。専門の学芸員にも相談することができる。